

1 児童生徒の学びをサポートするICT活用

(1) 主体的な学び

こんな実践

発表したい絵を選んだ生徒が、その絵の魅力をグループで話し合い、自分の意見を伝えたり他人の意見を聞いたりしながら、根拠を明確にして自分の感じた魅力を記述していく実践です。

実践学校 B中学校

実践学年 1学年

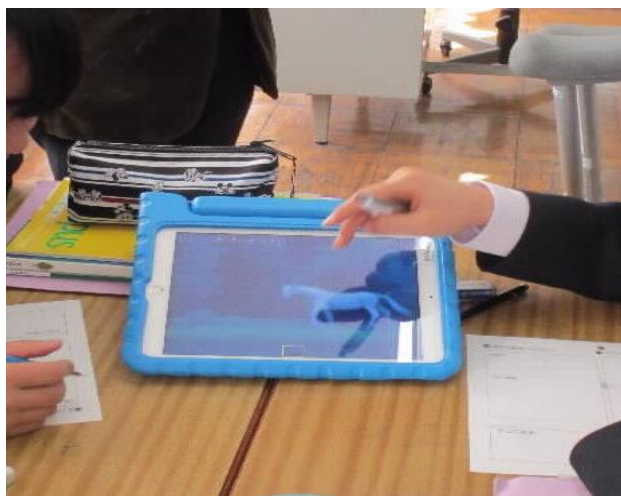
実践時期 1月中旬

単元・題材名 「根拠を明確にして魅力を伝えよう」

学習指導要領との関連 B 書くこと (1) ウ

- 4人グループにタブレット端末を1台用意します。タブレット端末には数種類の絵をインストールしてあり、生徒は自由に絵を選び、タブレット端末画面に表示することができます。
- 全体提示用の電子黒板が教室左側前方に設置してあります。
- 前時、発表したい絵を4人グループで1枚決めだしています。本時は、その絵のどんな点に魅力を感じたのかをグループで情報交換をしながら記述していきます。
- ある班では、東山魁夷『緑響く』の絵を魅力的な絵として選びました。タブレット端末で『緑響く』に描かれている馬の姿に焦点を当て、拡大表示し、この絵の魅力を自分の言葉で伝えました。

「ねえ、ここ見て。水に映った馬の色が、ちょっと薄くなってぼんやりしているでしょ。馬が本当に水に映っているように描かれているじゃん。ここが僕は好きなんだ。」



- 馬の姿が拡大表示されたので画面表示を通常の大きさの表示に戻し、『緑響く』の絵全体をタブレット端末に表示し、絵の魅力をとらえ直し伝え合う会話が始まりました。



「全体で見ると、木の葉の色も、水面の上下で違ってらるんだよね。なんか安心する感じがする。」

「確かに。色だけじゃなく葉っぱの大きさも、水に映ったのは違ってらるね。」

「本当だ。本当にちがう。作者はわざとそうしたのかなあ？」



ここがポイント！

- ・気になったポイントを、タブレット端末の拡大表示機能を使って説明します。そして再び縮小表示し、全体の構図の中でポイントとなった部分をとらえ直し、全体の絵の魅力を再構成し、より詳しく絵の魅力を伝えていきます。
- ・拡大・縮小表示機能を有効に使うことで、自分の感じた絵の魅力の根拠を部分と全体という見方で明確にして伝えることができます。生徒はICTを活用し、自分の根拠づくりを主体的に行いました。

まとめ

- ・タブレット端末の拡大表示機能を使うことで、ミクロの視点で対象を捉えたり、縮小表示機能を使うことで、マクロの視点で対象全体をとらえ直したりして、主体的に対象と関わり対象のとらえを自分の中で再構成することができます。
- ・ICTを活用し主体的に対象に関わることで、新たな問いも生まれてきます。